九条北小学校　校長室だより

NO.51　　令和2年8月6日

８月６日、被爆地・広島の平和記念式典が行われました。

★　平和の願い絵画に「戦争という言葉　なくなりますように」★

被爆地長崎、広島の商業高校の生徒たちが被爆７５年の節目に合わせ、平和への思いを込めた絵を共同で制作したそうです。絵の中心にこんなメッセージを添えられています。**「戦争という言葉がなくなりますように」「世界中で青い空が続きますように」**

長崎商業高と広島商業高は、２００９年に姉妹校となり、平和交流活動として、広島原爆の日（８月６日）と長崎原爆の日（同９日）に毎年、互いの学校の慰霊祭に生徒代表を派遣しているそうです。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で派遣は中止に。こうした中でも平和を発信し続けようと、初めて絵を共同制作することにしたそうです。

両校の生徒会がオンライン上でデザインやメッセージについて意見交換。長崎の平和祈念像、広島の原爆ドーム、制服を着た両校の生徒が笑顔で手をつなぐ姿などを描く案に決まったそうです。全校生徒の折り鶴で作った千羽鶴も両校で贈り合うそうです。

両校は毎年の慰霊祭で、「ヒロシマ・ナガサキから核兵器廃絶の声を世界に向けて発信していく」と**共同の平和宣言**も読み上げており、前文を考えるのは生徒会長の役目。**「原爆は「人の手」によって作られ、「人の上」に落とされたものだからこそ、「人の意思」によって無くすことができる」と訴え、「その意思が生まれる場所は私たち一人一人の心の中です」**との言葉を選んだそうです。

★　平和記念式典での児童代表による「平和への誓い」全文　★

「７５年は草木も生えぬ」と言われた広島の町。　７５年がたった今、広島の町は、人々の活気に満ちあふれ、緑豊かな町になりました。　この町で、家族で笑い合い、友達と学校に行き、公園で遊ぶ。　気持ちよく明日を迎え、さまざまな人と会う。　当たり前の日常が広島の町には広がっています。

しかし、今年の春は違いました。　当たり前だと思っていた日常は、ウイルスの脅威によって奪われたのです。　当たり前の日常は、決して当たり前ではないことに気付かされました。

そして今、私たちはそれがどれほど幸せかを感じています。

７５年前、一緒に笑い大切な人と過ごす日常が、奪われました。昭和２０年（１９４５年）８月６日午前８時１５分。　目がくらむまぶしい光。耳にこびりつく大きな音。　人間が人間の姿を失い、無残に焼け死んでいく。　町を包む魚が腐ったような何とも言い難い悪臭。　血に染まった無残な光景の広島を、原子爆弾はつくったのです。

「あのようなことは二度と起きてはならない」

広島の町を復興させた被爆者の力強い言葉は、私たちの心にずっと生き続けます。

人間の手によって作られた核兵器をなくすのに必要なのは、私たち人間の意思です。　私たちの未来に、核兵器は必要ありません。　私たちは、互いに認め合う優しい心を持ち続けます。　私たちは、相手の思いに寄り添い、笑顔で暮らせる平和な未来を築きます。　被爆地広島で育つ私たちは、当時の人々が諦めずつないでくださった　希望を未来へとつないでいきます。

令和２年（２０２０年）８月６日

子ども代表　　広島市立安北小学校６年　　長倉菜摘

広島市立矢野南小学校６年　大森駿佑